

番 号 1

平成23年6月10日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 8番 佐藤 直 樹

		平成23年6月10日 午前11時37分 受領	
発言通告書	発言の種別	一般質問	
発言の要旨			備考
1. 東日本大震災に学ぶことは何か。 ○仙北市が震源地の場合、想定される被害は、対応策は。 ○地震防災マップの見直しをすべきと思うが。 2. 市庁舎のあり方についての提言書について。 市長の考え方は。			
上記の通り通告します。			

番 号 2

平成23年 6月10日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 21番 佐々木 章

		平成23年6月10日 午前11時12分 受領	
発言通告書	発言の種別	一般質問	
発言の要旨			備考
<p>○市名変更 —— 「田沢湖角館市」への道すじは。</p> <p>(イ) 2月定例会後の市政懇談会等における市民の声は？</p> <p>(ロ) 全国的に有名な観光ブランド「田沢湖・角館」のロゴマーク制定後の市名変更についての市民の方々の機運の高まりは？</p> <p>(ハ) 「仙北市」ではこの地域の対外的なインパクトは弱く、全国的な認知度は今一つという感じがするが、日本各地を訪問して会議等に出席している市長自身はどのように考えているのか？</p> <p>(ニ) 合併当初の理念である「観光産業を生かした北東北の交流拠点都市」の実現のためには、これまでとは違った切口でその方向を探る時期に至っているように思うし、そのためには市名変更も大きなファクターと考えるが市長はどのように考えるのか？</p>			
上記の通り通告します。			

平成23年 6月 9日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 7番 阿 部 則比古

		平成23年6月9日 午後0時27分 受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>◎仙北市の観光業者は、これまで経験したことのない存亡の危機に瀕しています。特に田沢湖高原の宿泊業者の危機的な状況は誠に深刻で、これまで市としても様々な方策を講じては来ましたが、さらに関東や関西の大手旅行業者などに、例えば宿泊にプレミアムを付ける等で誘客営業できないか。或いは何か有効な手立てはないものか伺う。</p> <p>◎この前も委員会で触れたが、今一度一般質問で庁舎の建設について質問したい。恐らく合併特例債は、当初の合併促進策通りに平成27年度内完成でなければ充当不可になるだろうと思われるが、「皆の庁舎検討委員会」の答申結果も出たことでもあるし、そろそろ計画に着手しなければ、ほぼ半永久的に建設が不可能になると私には思われるが私どもの会派「民政会議」が主張しているように職員の皆さんに、返済に一定の目途が立つまで5年程度でも協力を願うつもりはないか。</p> <p>◎バイオマス発電について伺う。すったもんだの挙句、基本設計と廃熱を有効利用してエネルギー効率を上げるとした基本理念も無視して熱供給はチップボイラーで、チップガス化炉は2系統に変更する等。これまでの前提が大きく変更される以上、月島機械に工事計画や工程表のみならず、工事終了後のランニングコスト等についても試算させて詳しく検討しなおす必要があるのではないか。月島機械内部でバイオマス発電事業部の立場が無くなって事業部が廃部になる恐れがあるのではないか？</p>			

◎去る5月15日、角館高校と角館南高校の統合に関する県の「基本構想検討委員会」が主催する「基本構想説明会」が開かれたが、これに関して詳しく伺いたい。

◎本年度からスポーツ振興課が新設されたが、これまで公費を使ってまで体育指導委員を各地区に育ててきたにも係わらず、十分に活用されているようには見えないが、今後市民スポーツと行政のコーディネーター役としてもっと体育指導委員を活用すべきではないか。

◎これまで本市の光ブロードバンド敷設計画の概要を伺ってきたが、今後の予算との兼ね合いと、市長の一早い敷設の決意を伺う。

◎先の東日本大震災以来、関東以北の内陸部の地殻の応力が著しく変化したため、直下型地震が絶えず発生している。マグニチュードは小さくとも、地殻の浅い部分で発生すると大きな被害が出る。市内の特に保育園や小中学校、高校、老健施設等の直近の土建業者等に補助金を出しても大型ショベルに取り付けるガレキ処理用フォークを備えさせられないか。

上記の通り通告します。

番 号 4

平成23年6月9日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 11番 荒木田 俊 一

		平成23年6月9日 午前8時30分 受領	
発言通告書	発言の種別	一般質問	
発言の要旨			備考
<p>1. 農政について</p> <p>①市内の農地の基盤整備は済んでいると認識しているのか。</p> <p>②耕作に不利、未利用地があると思うが改善策はあるのか。</p> <p>③基盤整備が必要な農地はあると思うが、取りくみはどう進めるのか。</p> <p>2. 教育行政について</p> <p>I 学校教育について</p> <p>①小・中学校はこのまま設置ができるのか。</p> <p>②今後、小・中学校の統合についてどのような考えでいるのか。</p> <p>II 市民会館について</p> <p>①機能、役割を十分に果たしているのか。</p> <p>②自主事業が弱い（少ない）のではないか。</p> <p>III 国立スポーツ科学センターのカヌーコース整備について</p> <p>①現在の状況はどうなっているのか。</p> <p>②市としてどのような協力を考えているのか。</p>			
上記の通り通告します。			

平成23年 6月 7日

仙北市議会議長 佐藤 峯 夫 様

仙北市議会議員 2番 熊 谷 一 夫

		平成23年6月7日 午後2時30分 受領	
発 言 通 告 書	発言の種別	一 般 質 問	
発 言 の 要 旨			備 考
<p>1. 防災対策について</p> <p>3.11の東日本大震災は、M 9.0という未曾有の大震災であり、その上原発問題も重なり、3ヶ月を過ぎた現在もその傷跡は大きく、日本のみならず世界中が震災の復旧・復興と原発の収束に向けて取り組んでいる現状である。そこで本市における“防災対策”について以下の点について伺います。</p> <p>①仙北市地域防災計画では、M7.2を被害想定値としてすべての対策を講じているが、今後の防災（震災）対策の見直しは行わないのか？特に今回の東日本被災地のように道路・橋が崩壊し孤立化した集落への水や食糧補給等の備蓄・供給態勢は大丈夫か？（今回、食糧・水が自衛隊によって投下されるまで最長11日かかった集落があった。）医療体制等はどうか？（自家発電設備等緊急時の体制はとれるか？）</p> <p>② 情報伝達、避難指示等の迅速な対応はとれるのか？</p> <p>③ 【被災者支援システム】の導入・運用について・「資料1参照」</p> <p>④ 「仙北市防災の日」を制定し、地域防災教育・訓練の実施を徹底</p>			
<p>2. 防災教育の重要性について・・・・・・・・・・「資料2参照」</p> <p>今回の大震災で釜石市立の14の小中学校全校は、校内にいた児童生徒約3,000人全員が無事でした。かけがえのない命を救ったのは、独特の「防災訓練」ではなく【防災教育】でした。群馬大学の片田教授が学校防災教育を始めたのは7年前からでした。</p> <p>・・・・・・・・以下資料説明</p> <p>本市では、津波はきませんが、余震と思われる群発地震が頻発し、先月27日の夜にも震度4の地震が起きております。私は今回の大</p>			

地震で、多くの子供たちの命を守ったというこの教訓を活かす、

【防災教育】の重要性を強く感じました。片田教授は、小中学校で防災教育を進める狙いは何ですか？との質問に「10年たてば最初に教えた子供は大人になる、さらに10年たてば親になるだろう。すると後世に伝える防災文化の礎が出来る。もう一つは子供を通じて家庭に防災意識を広げて行く事ができる」と答えております。是非とも、全市内の小中学校で、【防災教育】をしっかりと行って頂きたいと思っておりますがいかがでしょうか？

あわせて、避難所としての学校施設の防災機能を高めていただきたい。

震災の際には学校施設は多くの被災者を受け入れ、今も避難所や防災拠点として使われております。そして、当然のことながら教育施設であるために防災機能の整備が不十分な為、使用に際して不便や不具合を生じているのも事実であります。この実例を参考に防災機能を備えた学校施設としての整備に取り組んでいただきたいと思っております。現状と取り組む姿勢についてお聞かせ下さい。

3. 観光産業への緊急対策について

当市の観光産業は、この震災以降大変な状況が続いております。角館町内のおみやげ店は震災以降5月まで昨年の1割~2割の売り上げしかなく、従業員の給料も払えない現状です。そして市内の旅館・ホテル業に至っては1日数人の予約客しかない状態のところほとんどであります。従業員、パート従業員の解雇や自宅待機、給与の10~25%カットを行ったり、先般の地震復旧支援資金の融資でようやく支払手形を落としたりとまさに乾いたタオルを搾り出すようにして必死で営業を続けているという状況です。市当局でも商工会とタイアップして先週から販売開始した「げんき商品券」や市民温泉入浴券の発行、県も宿泊補助券事業などでなんとか地域活性化のきっかけにとの当局の思いは伝わってきます。しかし県内外の観光客や宿泊客が来ないことにはお金が回りません。観光は6次産業ともいわれるようにすべての経済に及ぼす影響も大きいし、市への納税額も大きいものがあります。市の財政状況が苦しいのは充分承知しておりますが、今だからこそ、市債を発行してでも観光産業に救いの手をさしのべていただきたいと思っております。市長並びに商工部長のお考えと今後の対策をお伺いいたします。

4. 『緊急時あんしんボタン』配布事業について

高齢者や体の不自由な市民に無料で配布している「緊急時あんしん

ボタン」の話題が5月2日夕方のニュース番組で紹介され、早速、24日に公明党土田横手市議の紹介で、横手市高齢ふれあい課の皆川課長の元を訪れ、説明を受けて実物をお借りしてきました。これです。(現物)これは、急病などの緊急時に役立つボタンで、この中に緊急連絡先やかかりつけの病院などを記入した緊急情報用紙、保険証のコピーなどを収納し、冷蔵庫内に保管しておく。駆けつけた救急隊員や近所の人が適切に対処する為の“お助けグッズ”であります。冷蔵庫の扉に貼り付け「緊急時あんしんボタン」が入っていることを知らせるステッカーも用意されています。ちなみにこのデザインは説明してくれた吉方主事のデザインによるオリジナルとの事でした。5月23日現在で648名以上の方に配られ現在も希望者が多いとの事。消防本部救急課の報告によると、昨年11月から救急搬送された65歳以上の方の15件中11件がこのボタンを持っており、迅速な対応と処置をする事ができたとの報告でした。高齢者が安心してくらせるまちづくりにつなげる為、是非「あんしんボタン」の配布事業を提案いたします。よろしくお願ひします。

5. 節電対策について

原発事故の影響で、7月1日から夏場での電力使用制限が病院や公共機関などを除き、一律15%となります。市内の企業でも「サマータイム制」の導入やさまざまな節電対策を講じはじめております。そこで、本市における節電対策の取り組みと今後の課題についてのお考えをお聞かせ下さい。

6. ドクターヘリへの対応について

いよいよ、秋田県にこの11月には運用開始されるドクターヘリについて質問いたします。先日、NHKでドクターヘリに乗り込んでいるフライトドクター(救命救急医師)3名が語る番組がありました。それによると今回の大震災でも、全国から18機が出動し150人以上がガレキから安全なところへ搬送されたとの事でした。また、要請から医師・ナースの乗り込む時間の平均を3~4分と見ている。1分1秒でも早く、助かる命を救うことへのプロ意識を感じた番組でした。消防からの出動要請がなければドクターヘリは飛べません。5月30日、県の地域医療再生計画案では仙北組合病院にヘリポートを整備する案が出されました。当市での、ドクターヘリへの対応やヘリポートの整備、消防本部との連携など現在の進捗状況についてお伺ひしたいと思ひます。

上記の通り通告します。

